

6年生算数科学習指導案

平成17年6月15日(水)

学級 6年1組 40名

<じっくりコース> 6年1組教室

授業者 石垣誠二

<ぱっちりコース> 高学年学習室

授業者 古家智之

1. 単元名 「分数のたし算とひき算」

2. 研究に関わって

研究主題 『仲間と共に学び合い、できる喜びを共に実感できる授業づくり』

研究仮説 仲間と共に学び合うことを通して、自分の考えの確かさを実感したり、新しい考えを見つけたり、自分の気づかなかった考えを友達の考えから知ったり、疑問点を解決したりすることで、できる喜びを実感できる授業づくりができるであろう。

(1) 算数科少人数指導の進め方について

6年生では、学級ごとに「じっくりコース」と「ぱっちりコース」の2コースを設定している。「じっくりコース」は、理解をするのに時間を要する子のために、スモールステップで着実に学習内容を理解していく。「ぱっちりコース」は、既習経験から自分なりの考えを持ち、仲間と考えを交流しながら理解を深めていく。コースは、教科書プレテストなどを参考に子ども自身に選択させている。ただし、その子に合ったコース選択ができていない場合や人数に偏りがある場合は、教師が助言し本人の了解を得てコースを決定している。また、基本的に単元が変わるごとにコース選択を行うようにしている。

(2) めざす「学び合い」の姿について

「学び合う」とは、自分の考えを話し、仲間の考えを聞くことで成立するものである。聞いて分からなかったことはさらに質問をする。そうすることで、自分の考えをより深め確かなものにしていくことができる。つまり、子どもたち自身で課題解決していこうとすること自体が「学び合い」の姿であると考えられる。よく、ゲーム性のある挑戦的な課題を与えると、周りの仲間とあれこれ言いながら必死になって答えを見つけようとするところがあるが、問題や課題に対する子どもの意欲が高ければ、自然に「学び合い」が生まれてくるのではないかと思う。

しかし、いつもそんな問題や課題であるわけではないし、何となく仲間の説明を聞いているだけで終わってみると学習内容が身につけていないこともある。できる喜びを確実に子どもたちに実感させるためには、「学び合い」のし方を教えていく必要が出てくる。つまり、ペアやグループ、全体での交流のし方や説明する時の話し方を指導していくことが必要なのである。

そこで、6年生として願う「学び合い」の姿を次のように考えた。

- ・ 進んで仲間に説明したり質問したりすることで、自分の考えを確かなものにし、また、新たな考えを知ることができる。

本単元では「学び合う」姿を次のように考え、指導していきたいと思う。

○じっくりコース：仲間の考えを聞くことや教師の助言により分からなかったことが分かり、自分の言葉で説明できるようになる。

○ぱっちりコース：自分の考えと比べながら仲間の考えを聞くことで、自分の考え方との共通点や相違点に気づき、よりよい方法を見つけることができる。

(3) 本時について

本時は「大きさの等しい分数」「約分」に続く第3時「通分」の学習場面である。「大きさの等しい分数」で「分母と分子に同じ数をかけても分数の大きさは変わらない」という考え方を使って、2つの分数を同じ分母にそろえることを理解する。

じっくりコースでは、自分の考えを持ってない子や考えを整理できない子が多くいる。そこで、どの子にも分数の大きさを視覚的に捉えて比べられるように面積図を用意する。面積図に2つの分数の大きさを書き込むことで大きさの違いに気づかせ、さらに、目盛りに合わせて線を入れることで、分母の同じ分数にして比べられることを理解させる。また、スモールステップでの指示や発問をして、全体で確認しながら進めていくことで、自分の考えを確かなものにし、自信を持って説明できるようにしていきたい。

ぱっちりコースでは、いろいろな方法で考えさせていく。そこで、個人追究の時間を十分確保し、どの子にも自分の考えをきちんと持たせるようにする。そして、同じ方法の仲間と交流することで、自分の考えをより確かなものにし、全体交流で発表できるようにしていく。また、最終の全体交流では、自分と異なる考え方に気づかせ、よりよい方法を見つけていく。個人追究前にだれがどの方法で考えるかをネームプレートで示し、同じ方法の仲間を見つけれられるようにする。いくつもの方法が出てくるため、根拠をはっきりさせて分かりやすく仲間に説明できるようにし、分かりにくい場合は仲間から質問していけるようにしたい。

～本時の授業の視点～

<じっくりコース>

○仲間の考えを聞くことや教師の助言により、分からなかったことが分かり、自分の言葉で説明できたか。

<ぱっちりコース>

○仲間の考えを聞いて、自分の考えとの共通点や相違点に気づくことができたか。

○根拠をはっきりさせて仲間に説明することができたか。

(4) 児童の実態

算数授業に対する意欲はどの子も低くはない。そこには、分かりたい、できるようになりたいという願いが強く感じられる。また、これまでの授業で、わかった時に「わかった!」と声を上げたり、本当に満足そうな笑顔を見せたりする様子から、子供どもたちにとって、わかること、できることはとても大きな喜びであると感じている。

本時の内容である「通分」には、前単元の「倍数・公倍数」や第1時の「大きさの等しい分数」の考え方が生かされてくる。「大きさの等しい分数」の自己評価を机列表に示したが、基本的には理解している。ただし、九九が苦手な倍数・公倍数を見つけるのに時間がかかる子がいるので、練習問題を解く時には、早く公倍数を見つけるために個別指導を行っていく必要がある。

「学び合い」という視点では、特にじっくりコースに自分の考えを整理して話すことの苦手な子が多い。仲間の説明に対して、本当はおかしいことでも「わかりました。」と答えてしまうし、同じ説明を自分がもう一度繰り返すことができない子が多い。ぱっちりコースでは、積極的に説明できる子がいるが、仲間の説明が理解できない時などに自分から質問する子は少ない。説明する子に対して教師が質問をしてみせたり、聞き手に対して本当に理解しているのか確かめたりしていきたい。

3. 単元目標および単元指導計画（別紙参照）